

トライアングルスピーチの実際

トライアングルスピーチにおけるねらい

- 友情に対する自分の考えや気持ちを工夫しながら分かりやすく話すことができる。
- 話し手の意図を考えながら、スピーチの内容を注意して聞き取ることができる。

導入時の留意事項

- コミュニケーションを成立させるには、話し手だけでなく、聞き手の役割も重要なことを話す。
- 3人1組によって、学習の効率化を図り、共感的な雰囲気をつくり、スピーチに対する抵抗感を減少させる。
- 中学1年生の5月という時期を考慮し、和やかな雰囲気をつくり出すために、なるべく同性同士でグループをつくらせる。

話し方・聞き方のポイント

事前に行ったアンケートの集計をもとに、自分の話をよりよく聞かせるための注意点と、相手によりよく話させるための注意点を生徒から出させました。具体的には、技能の項目と態度の項目とにあらかじめ分けたワークシートを用意し、その中で自分が特に注意しなければならない点を3つずつ出させるようにしました。出された注意点は、スピーチのチェック項目として使用しました。

トライアングルスピーチの進め方

トライアングルスピーチの進め方は、マニュアルを用意し、一つのグループを使って実際に動作を交えながら一通り説明しました。

一人の生徒が、話し手、聞き手、アドバイザーを経験できるように3回行いました。以下が、実施上の注意点としたことです。

- 聞き手は極力メモをとらずに、スピーチに聞き浸らせる。
- アドバイザーはメモをとりながら話し手と聞き手を観察し、それぞれを評価していく。
- スピーチが終了したら聞き手と話し手とで質問のやり取りをさせる。
- 話し手だけでなく、聞き手にも自己評価をさせる。
- プリント記入後に、自己評価・相互評価の記入結果を発表させる。その際、スピーチと同様に話し方・聞き方に注意させる。
- どの生徒もスムーズに評価結果の発表ができるように発表マニュアルを用意しておく。

トライアングルスピーチの様子

話し手の生徒は、身振り手振りも交えながら生き生きと話していました。その姿からは、自分の伝えたいことを相手にわかってほしいという熱意が感じられました。やはり、スピーチ原稿の状態ではなくスピーチメモにとどめておいたことがよかったのかもしれません。

聞き手の生徒は、話し手の生徒を見ながらうなずいていました。これだと話しやすくなります。アドバイザーの生徒は、すぐ近くで話し手と聞き手を客観的に観察することができていました。話す立場と聞く立場の双方から、話すこと・聞くことについて考えることができたようでした。